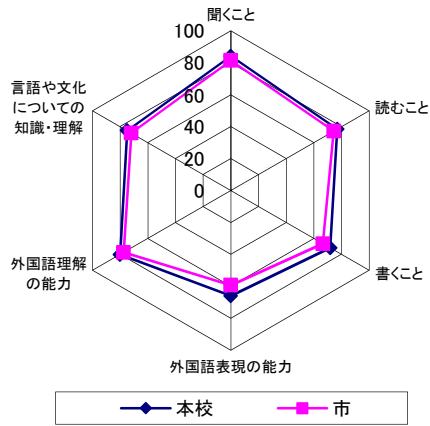


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	84.1	81.4	76.1
	読むこと	77.0	74.4	71.2
	書くこと	71.9	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	65.9	59.3	51.7
	外国語理解の能力	80.1	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	75.1	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、いずれの問題も市の正答率より高い。 ○聞きとった英文の内容をもとに、絵や図などの視覚的情報から必要な答えを選ぶ問題に関しては正答率が高い。 ●聞き取った内容に関して、英語の文を読んで答える問題に関しては苦手とする生徒もいた。	・苦手と感じている生徒が力を伸ばすには、長い英文の中から必要な情報を聞き取り、活用するためには聞き取りの機会をより多く設定し、聞くという活動に対して慣れることが必要であると考えられる。
読むこと	平均正答率は、いずれの問題も市の正答率より高い。 ○読むという観点においては、会話や資料の読み取りなど様々な種類の英文があるが、いずれも平均80%程度の生徒が内容をしっかりと読み取ることができた。 ●読み取りという観点の中でも、「読み取った内容に適切に応じる」「スピーチの内容をふまえた英文を書くことができる」といった活用の部分で正答率が低かった。	・聞くということに比べ、読むことを苦手とする生徒は、文字と音声がつながっていないということが主な理由であると考えられる。見て、聞いて分かる語彙が、読んでも分かるようにするために、「聞く」「話す」の次のステップとして「読む」という活動を数多く行うことで読解力につながる語彙力の強化が図れると考えられる。
書くこと	平均正答率は、いずれの問題も市の正答率より高い。 ○自分の行ってみたい場所について3文以上の英文で書く問題は、約75%の生徒が自分で必要な文法を選択し、文を書くことができた。 ●比較級や不定詞、動名詞を用いた文を書く設問において、正答率が50%～60%と低い状況であった。	・「書く」ということ自体に苦手意識を持っている生徒が多い状況である。発音できる、文字を読んで分かる単語を書くことができない生徒が多数いるので、単語や熟語、文などを手を使って書く活動を設定し、生徒が英文を書く機会を意図的に増やしていくことが必要であると考えられる。